

2018年8月、国連人種差別撤廃委員会の日本審査により様々な勧告がおこなわれました。在日コリアンを含む外国人、アイヌ民族、琉球・沖縄の人びと、被差別部落民など、多様なマイノリティグループが存在するにも関わらず、日本には、未だに差別禁止法も国内人権機関も存在しません。差別撤廃の政策や措置がないなか、日本はどのように外国人を迎え入れるのでしょうか・・・前国連人種差別撤廃委員会の議長であるアナスタシア・クリックリー氏が、同委員会を通してきてきた諸外国の教訓・好事例やヨーロッパの人権課題の事例を交え報告を行います。

プログラム

- ・ 基調報告：アナスタシア・クリックリー前国連人種差別撤廃委員会議長（逐次通訳付き）
- ・ NGO報告
- ・ 質疑応答

アナスタシア・クリックリー（Anastasia Crickley）

1982年よりアイルランドのマイヌース大学教員、2005年から2015年まで同大学社会学部長。国内外のNGOと協働して女性差別や人種差別の問題に取り組む。2010年に国連人種差別撤廃委員会委員に選出（～2017年）、最後の2年間は同委員会の議長を務めた。



日時

2019年1月18日（金）

13:45-15:30

13:20から衆議院第二議員会館1Fロビーで
入館証を配布します

会場

衆議院第二議員会館

第1会議室

地下鉄「永田町駅」「国会議事堂前駅」
下車

アナスタシア・クリックリー 前国連人種差別撤廃委員会議長を迎えて 外国人政策と国際人権基準



◀お申し込みは1月17日までにこちらから、あるいは下記連絡先まで

主催：人種差別撤廃NGOネットワーク（ERDネット）

連絡先：反差別国際運動（IMADR）

電話：03-6280-3101 Fax：03-6280-3102 e-mail: erd@imadr.org

※嫌がらせや中傷を目的としたご参加は固くお断りいたします